

ディスプレイの眼

果たして…

ディスプレイ憲章

ディスプレイは
主題を空間に演出する伝達技術である
われわれは
企業間の相互理解に立ち
業界全体の繁栄をはかると共に
創造に徹し
技術を磨き
ディスプレイを通じて
社会に貢献する

CONTENTS

ディスプレイの眼 果たして…	・ ・ 1
四支部合同交流会	・ ・ 2
表紙デザインコンテスト 結果発表	・ ・ 4
50周年ロゴコンテスト 結果発表	・ ・ 5
組合創立 50周年 PRポスター公募	・ ・ 6
第44回野球大会 準決勝・決勝	・ ・ 7
Next HERO わが社の新人紹介	・ ・ 8
東京デザイン巡り 鉄道会社編	・ ・ 10
安全委員会報告	・ ・ 12
女性リーダー育成研修開催	・ ・ 13
ディスプレイ塾 労働災害と 行政の動向セミナー	・ ・ 14
編集後記	・ ・ 15

9月7日に2020年オリンピック・パラリンピックの開催都市が決定しました。実は、この原稿を書いているのはまだ8月なので分かりません。「東京開催」の決定を信じて書いております。

前回の東京オリンピックは1964年でしたが、その時の経済効果は有名な所では、新幹線、首都高速などがあります。また東京初というのもいろいろあったとの事です。例えば、初めてコンピュータによるリアルタイム記録管理、今では当たり前になっている閉会式で各国の選手が入り混じって肩など組んでの入場など。またマラソンが全コース生中継された事。案内や誘導、競技種目表示にピクトグラム(視覚記号・サイン)が採用されたこと。

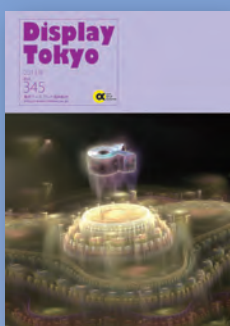
他にもいろいろあると思いますが、今回、東京で開催されれば全国の需要増加額1兆2千億以上、経済波及効果は3兆円と言われております。ディスプレイ業界にとっても大いに喜ばしい事であるのは間違いありませんが、世界の人々のコミュニケーションの場を創る壮大なプロジェクトに、ディスプレイ業界が肩を組んで一丸になり世界に発信出来るなんて、なんと素晴らしい事でしょう。

また前回の1964年は、東デ協が「東京展示造型業協同組合」として設立したのも同じ年でした。そして東デ協50周年を迎える前の年に「東京開催」が決定すれば、何か運命的なものを感じます。

何れにしても2020年は千載一遇のチャンスとも言われています。今回残念だった場合、今後ライバル都市が増え、今後のレースは更に激化し、もっと開催が難しくなると言われています。

とにかく「東京開催」決定をただ祈るばかりです…バンザイと言っている自分を想像し…

広報委員 田村 武男/株ニップコーポレーション



表紙デザイン
原 民子/
ヒビノメディアテクニカル株式会社

「ディスプレイ東京」表紙デザインの応募を見たときに、最近気になっている「Apophysis」というフリーソフトで作成したグラフィックを見ていただいていた機会だと思いました。このソフトは様々なフラクタルを生成でき、不思議な世界の虜になってしまいます。このグラフィックは、公開されているチュートリアルをもとに作成しました。